偐紫田舎源氏

十二編

種彦作　国貞画

小野ひふき写田舎げん―

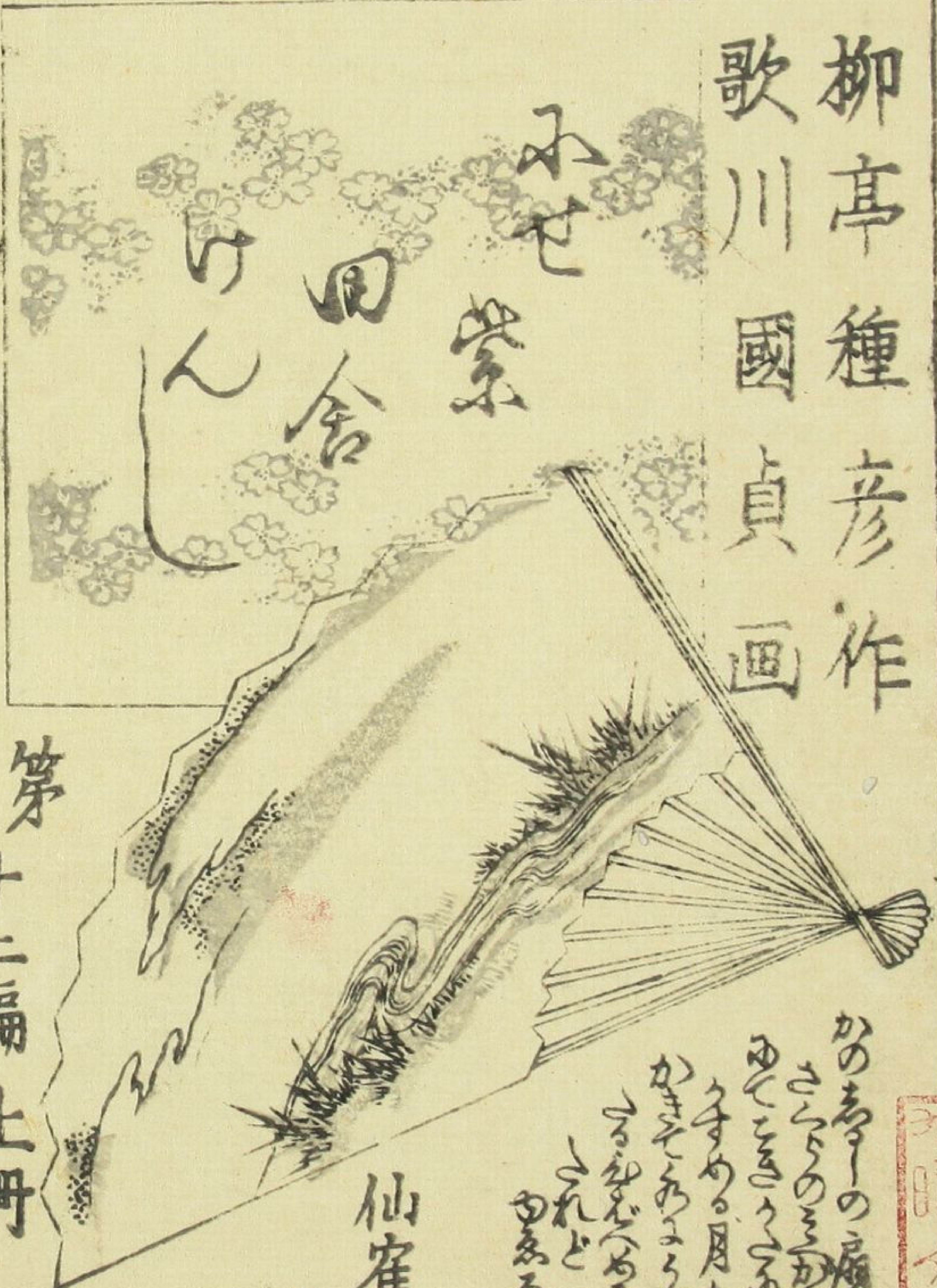
十編上

とりのうみ

天保甲午春發販

柳亭種彦作
歌川國貞画

にせ紫田舎げんじ



第十二編上冊

かのあきしの庭に
さくらの花かざる
ゆでききつくに
うすめる月を
かきそなへよろし
るみそくやるれ
されど
みまぐろ

仙寉堂梓

[library seal]

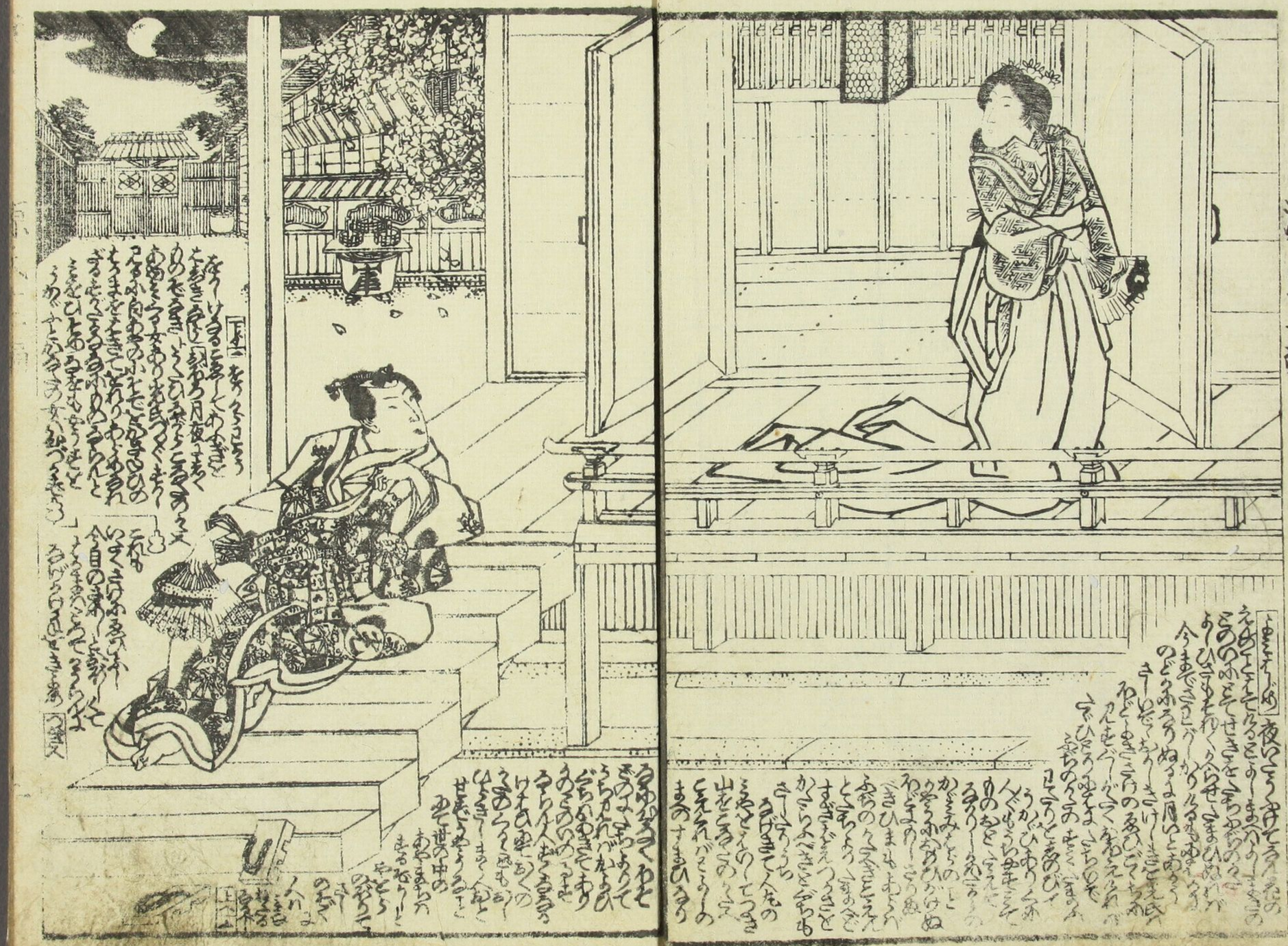
修紫田舎源氏十二編序

實にゆかりの海に作り習ても源氏のかのめの繪草紙ハ葵と偽る
蔓廿四て其巻までハおよびもあらで夕顔に至りるハそれぞと寄て視る
人多く若紫の色あせてなかりしかバ末摘花ハ紅葉の賀の狂言の
事恋書んと推量り既に前より引あげし車争ひの段よりいくらり
なかりしが最悔しく何よ書つらんと思ふにのみありされバ彼車の牛を
馬道ならぬ三筋町の罵詈の駕籠に乗かへても筆ハ走らず口をそ
硬くおとなしき人をハかくあれせそと教ゆれども是ハさるからに世に傳ふる
冊にハもわらぞとて校合の手もふれさせず個代のままに別顔よ物も
見で綴りしるれバ表紙なども押折れまぐろなる箕箱のあくにおし
やられて紙魚の御物よならんかと中く心ぼそくしあり

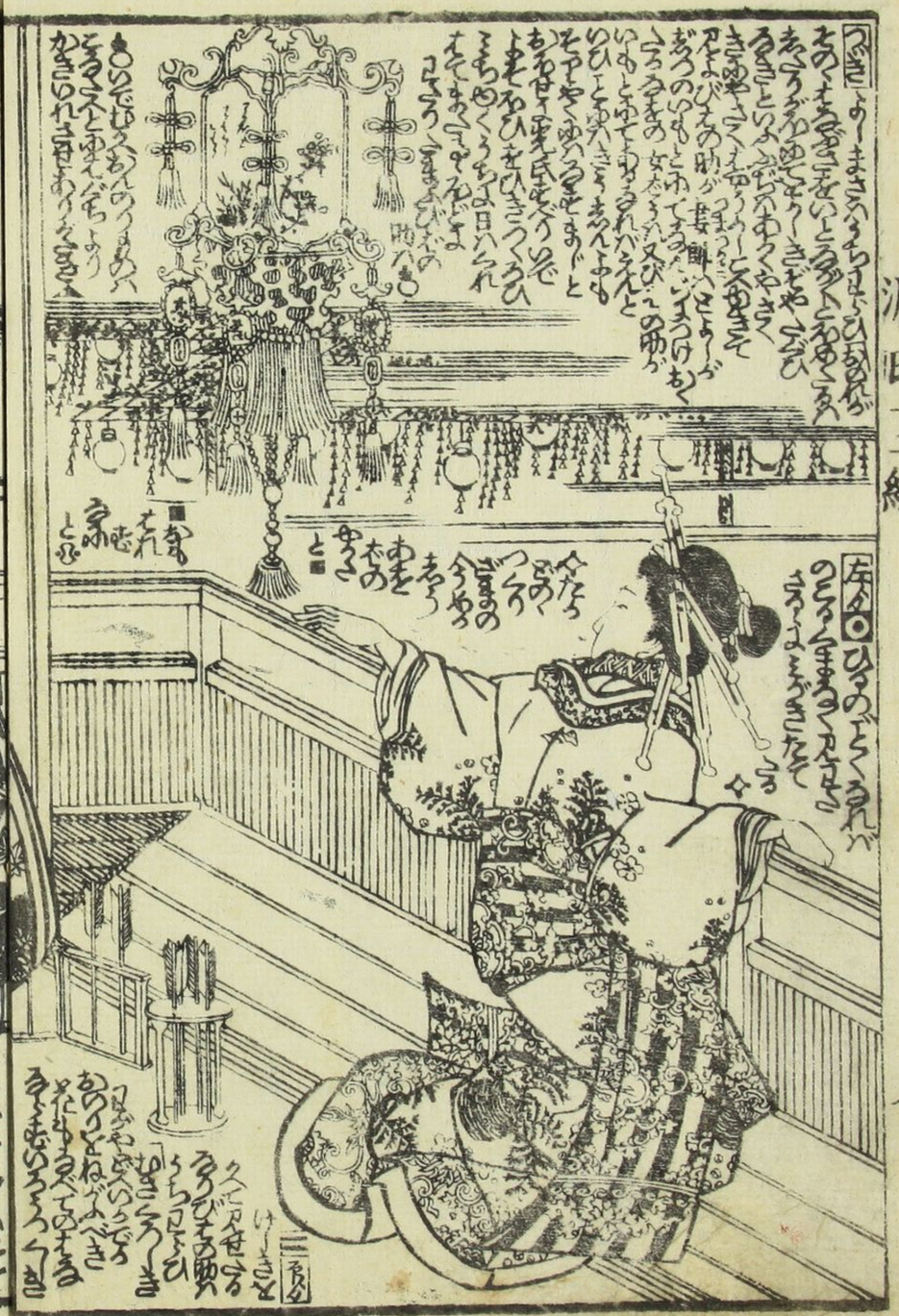
天保五年甲午正月

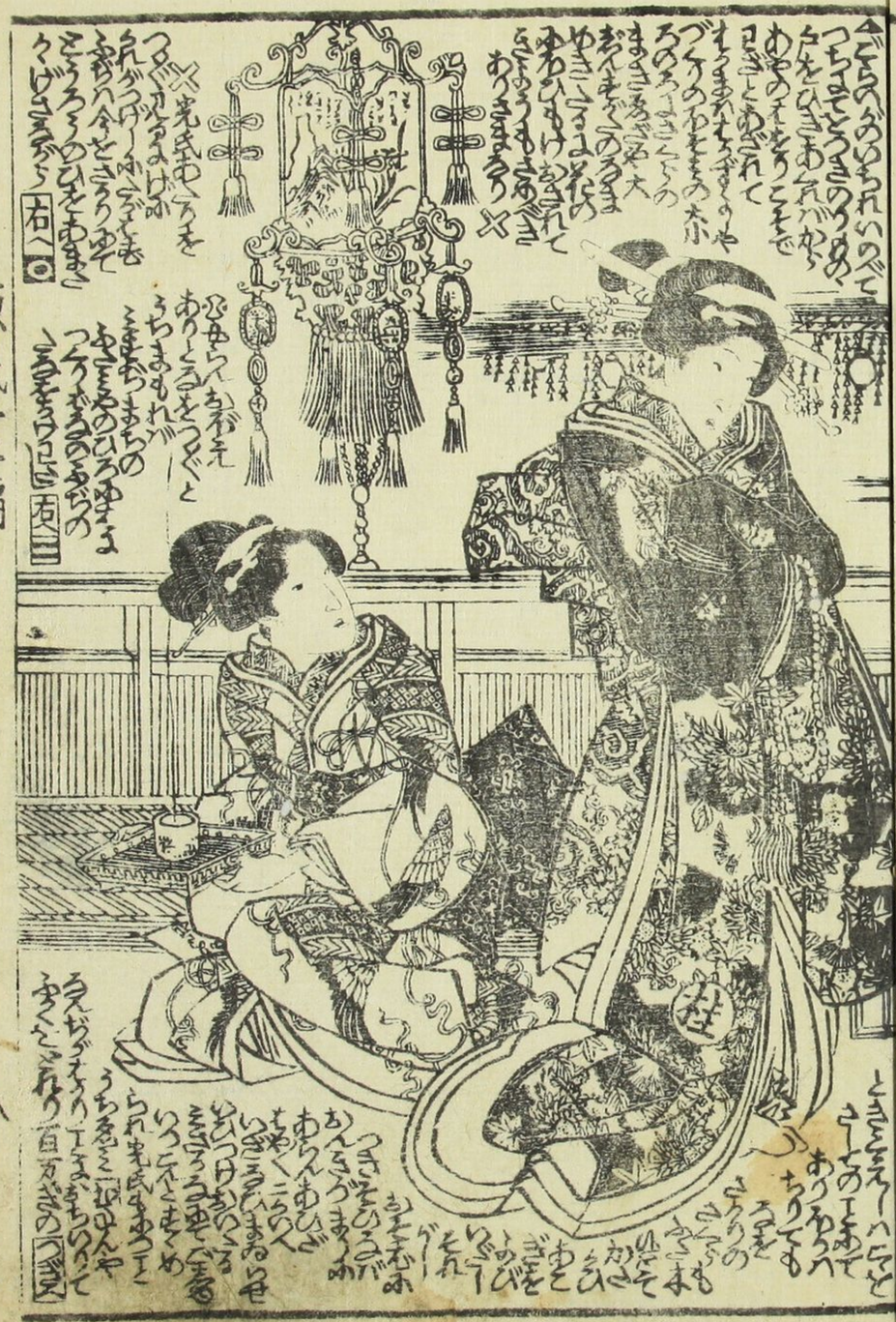
柳亭種彦記

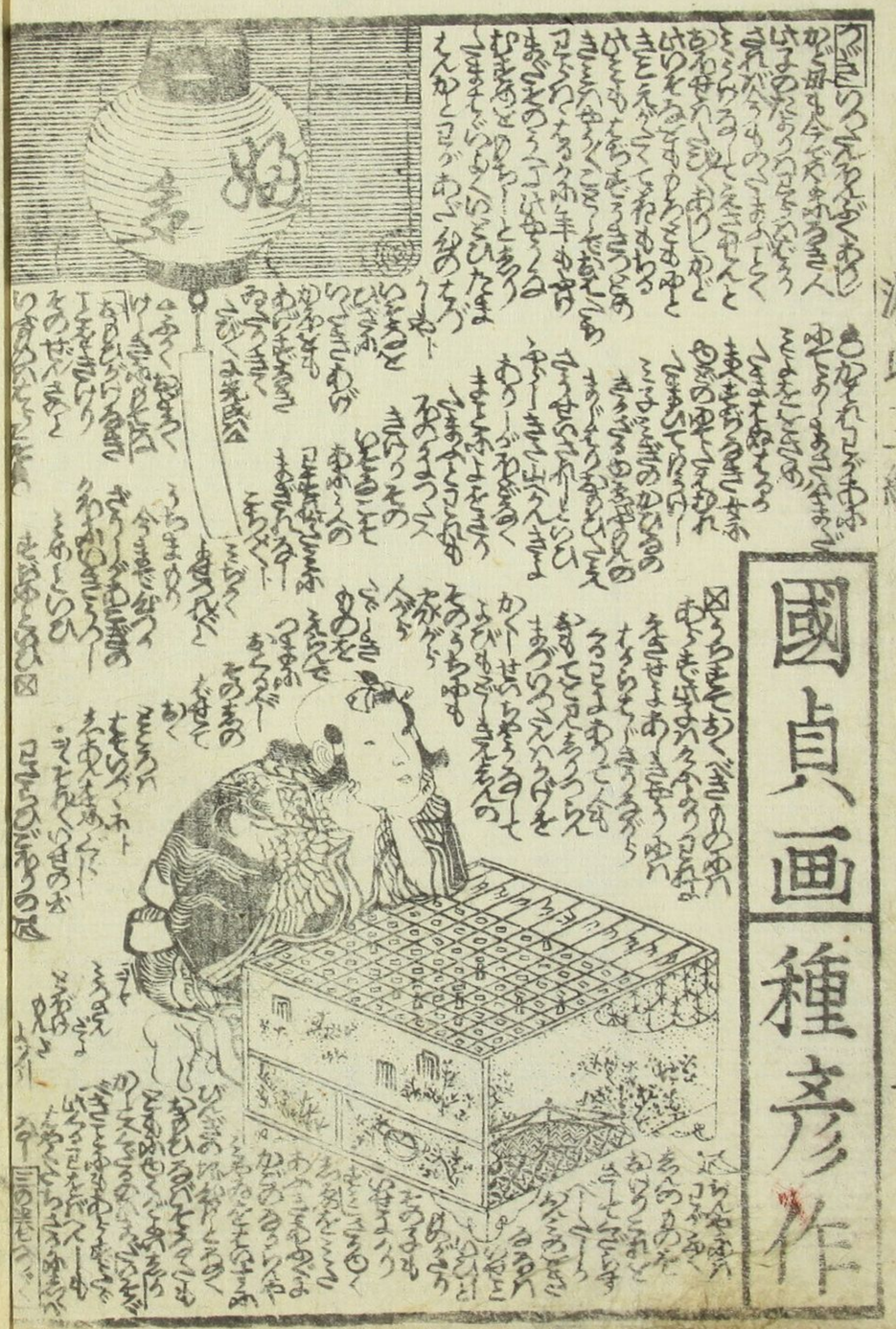
琵琶之助の娘
桂樹一休禪師の
義の宴ハ大内為満が館るべきと
例の揚屋よりうるハ
繪ものとかゝ
そその業るう
弟子とする
いつ寄の花
如てのゝをちこちゝ
ちゝかえさくる
まつと
まくさぬ
阿古木の
禿磯菜



二の巻







東都本町通二丁目須原屋茂兵衛

俳諧芳野集 全三冊 閑板

俳諧叢象集 全三冊 逸刻

俳諧全四歌仙 全一冊 閑板

東都本町通二丁目須原屋茂兵衛

俳諧 今人俳合集 全四冊 閑板

俳諧 今人叢句集 全二冊 未百年早春出板

書肆 江戸通油町 仙鶴堂 鶴屋喜右衛門蔵

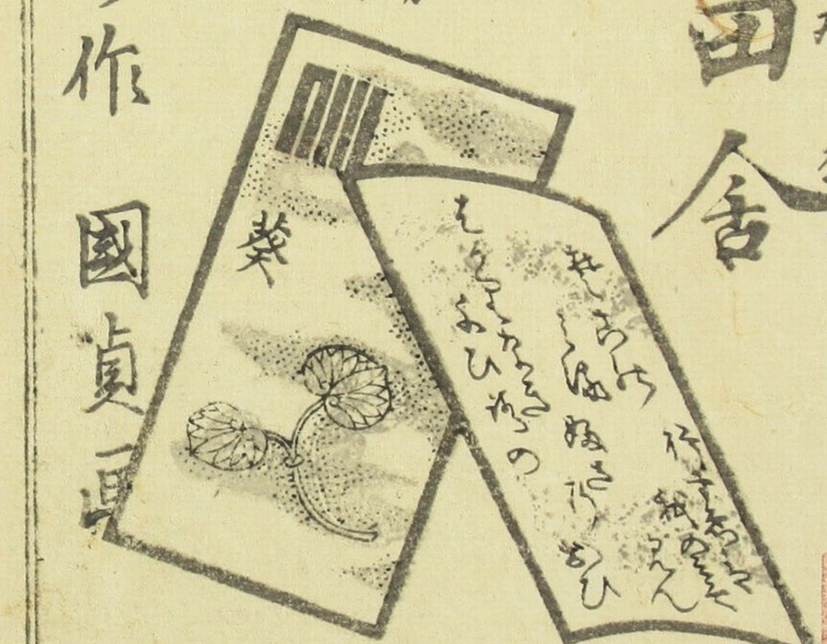
貞一画
十二編下

彦紫田舎源氏

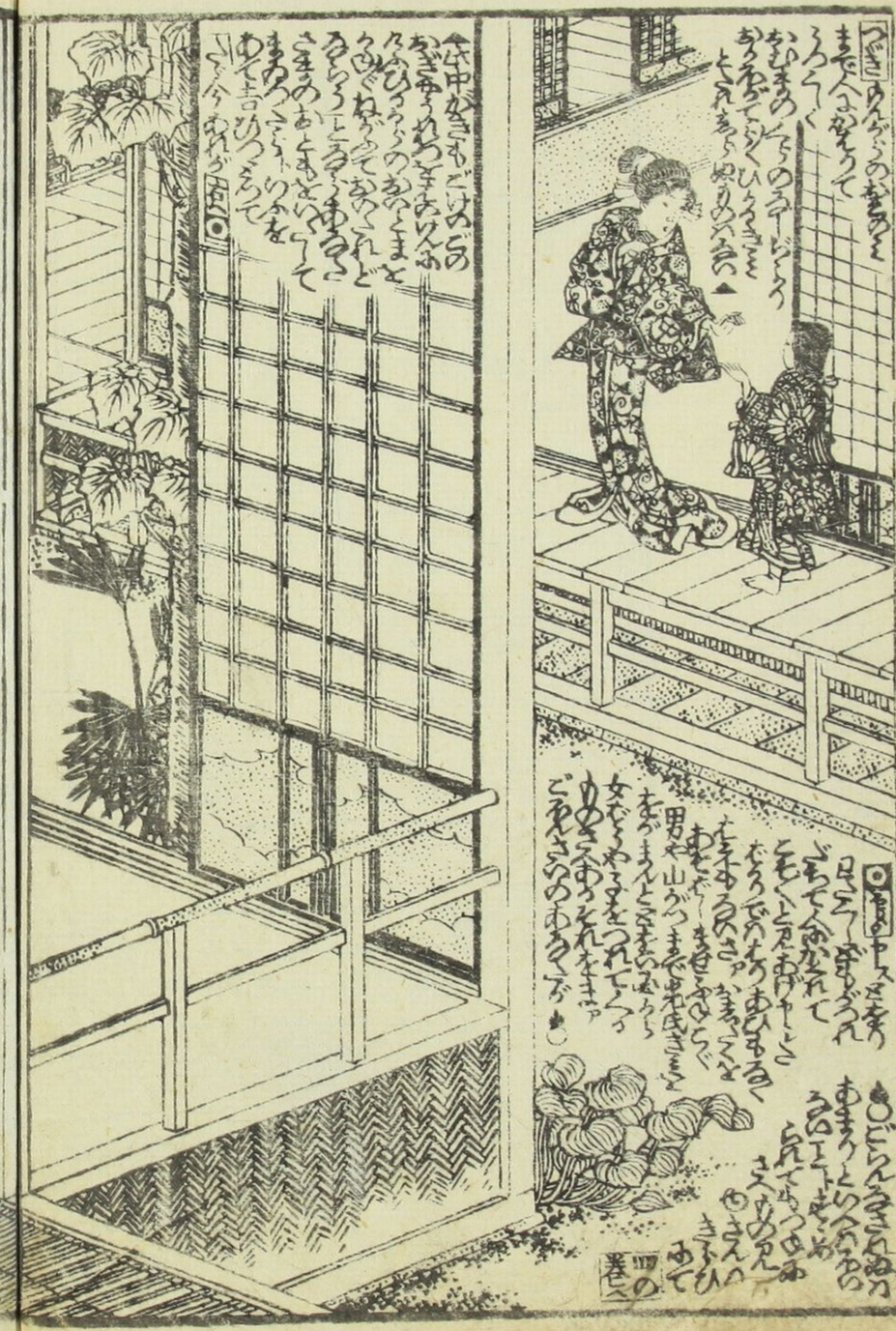
第十二編
下冊

種彦作

國貞画



通油町書房鶴屋開板



光氏

光氏

つき

天保九年戊戌初春新彫

偐紫田舎源氏（にせむらさきいなかげんじ）　第廿五編より三十編
柳亭種彦作　歌川國貞画

佐野渡雪中敵懸橋　緑亭仙橋作　全六冊　五雲亭貞秀画

復讐國字茶話文庫　丹頂斎鶴丸作　全四冊　五雲亭貞秀画

金花猫婆化生鋪　大笛舎金龍作　全六冊　五雲亭貞秀画

櫻風呂花芽開　白雲洞主人作　全四冊　五雲亭貞秀画

松竹梅ゆかりの藤浪　柳亭鶴升作　全八冊　歌川貞秀画

小絵ざうし　種彦作書　貞秀画図

茶番のいろは　二冊

昔咄　大蛇たいぢ　二冊

昔咄　きりちぢみ　三冊

昔話　浦島翁　三冊

美艶仙女香
黒油美玄香
南伝馬町三丁目西側　坂本氏製
四十八銅

書物錦繪
團扇地紙　問屋
江戸通油町
鶴屋喜右衛門

覧料乃字要